

小・中学生英語力向上推進事業

中学校外国語科 パフォーマンス評価 実践ハンドブック



平成30年3月

青森県教育委員会

【目次】

■ 新学習指導要領におけるパフォーマンス評価の必要性	1
■ パフォーマンス評価の実践について	2
■ 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標について	4
■ 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標(新学習指導要領対応)	6
■ 各領域のパフォーマンス評価例	
聞くこと	8
読むこと	10
話すこと(やり取り)	12
話すこと(発表)	24
書くこと	28
■ 自己評価・到達度チェックシート(例)	34

【本ハンドブックの作成に当たって】

1 趣 旨

- (1) 中学3年生に求められる英検3級以上相当の英語力を有する生徒の育成に向け、5つの領域(聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと)を総合的に育成するための指標となる県版『中学校外国語科パフォーマンス評価実践ハンドブック』を作成する。
- (2) 英語の5つの領域について、学年ごとの到達目標(CAN-DOリスト形式)の達成状況を測る共通指標(到達目標、評価の方法及び内容)を示すことにより、県内中学生一人一人の5つの領域ごとの英語力の状況を把握し、個別の英語力向上に係る指導改善を図る。

2 パフォーマンス評価の必要性

2016年の中央教育審議会答申では、「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、パフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。」としている。

よって、面接・スピーチ・エッセイ等のパフォーマンス評価を授業に取り入れ、「言語を用いて何ができるか」という観点から評価を行うことが大切である。

3 『青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標』の改訂

県教育委員会では平成26年6月に、『国際共通語として英語力向上のための5つの提言と具体的施策』(文部科学省2011年)の「生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証する」という提言及び『青森県中学生英語力向上のための提言』(青森県英語教育改善推進協議会2014年)の「確かな英語力を身に付けさせるため、具体的な学習到達目標を定める」という提言に基づき、青森県の中学生の実態を踏まえた上で、『青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標』を作成した。

そして、この度、新たな重点事業として取り組んでいる「小・中学生英語力向上推進事業」の一環として、新学習指導要領に対応する『青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標』として改訂を行った。

新学習指導要領におけるパフォーマンス評価の必要性

新学習指導要領（平成29年3月告示）から

☆外国語科の目標

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

中学校学習指導要領解説（平成29年7月発行）から

- 中学校の外国語科においては、言語の役割として、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面があることに留意し、特に他者とのコミュニケーションに焦点を当てて指導することが重要である。
- 「聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける」とは、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、獲得した個別の技能が自分の経験やほかの技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということである。



パフォーマンステストを活用した指導の充実が必要です。

パフォーマンス評価の実践について

本ハンドブックにおける各項目の説明は、以下のとおりです。

ここでは、5領域について中学1年生から3年生を対象としたパフォーマンス評価例を掲載しました。自校の生徒の実態を踏まえて、目標設定、パフォーマンス評価の実施方法・内容等を工夫する際の参考としてください。

また、下記URLからそれぞれの事例をダウンロードすることができます。

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/sassi.html>

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標

各事例に対応する青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を提示しています。(p.4参照)

2 パフォーマンス評価の目標

1を基に、各パフォーマンス評価における到達目標を示しています。

3 パフォーマンス評価例

「目標」で示した内容がどこまで達成できたかを測るための評価例です。(1)内容、(2)実施方法、(3)指導のポイントを参考に評価を行います。

4 評価のポイント

各例に示された「評価のポイント」に従い、評価を行います。Bに該当しない生徒は自動的にCとなります。

5 留意点

各例を他学年で実施する場合の具体例等について示しています。

生徒のコミュニケーション能力の育成を目指し、生徒の実態を踏まえ、言語活動を工夫することが大切です。

また、生徒にとって身近なコミュニケーション場面を設定し、各時間で学習した語彙・表現を実際に活用できるような言語活動を実施する必要があります。

I 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標について

青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標は、『国際共通語として英語力向上のための5つの提言と具体的施策』（文部科学省 2011年）の「生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証する」という提言及び『青森県中学生英語力向上のための提言』（青森県英語教育改善推進協議会 2014年）の「確かな英語力を身に付けさせるため、具体的な学習到達目標を定める」という提言に基づき、作成され、新学習指導要領の告示（平成29年3月）を踏まえ改訂したものである。

なお、青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標は、青森県の中学生の実態を踏まえて作成した例示であり、各校においては、自校の生徒の学習状況及び地域の実態等に応じて作成することが必要である。

1 目的

- (1) 新学習指導要領に基づき、外国語科の観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、生徒に身に付けさせる能力を各学校が明確化し、主に教員が生徒の指導と評価の改善に活用すること。
- (2) 新学習指導要領を踏まえた、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」及び「書くこと」の5領域を総合的に育成し、生徒が物事を捉え、思考する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を更に育成することを目指して改善を図った。
- (3) 新学習指導要領において領域別の目標が明確に示され、その目標と関連付けた学習到達目標とすることにより、生徒にどのような英語力が身に付くか、英語を用いて何ができるようになるのか、あらかじめ明らかにし、そうした情報を生徒や保護者と共有することで授業のねらいを明確にした上で、生徒への適切な指導を行うこと。
- (4) 面接・スピーチ・エッセイ等のパフォーマンス評価などにより、「言語を用いて何ができるか」という観点から評価がなされることが期待され、更なる指導と評価の一体化とその改善につなげること。
- (5) 生涯学習の観点から、教員が生徒と目標を共有することにより、言語習得に必要な自律的学習者として主体的に学習する態度・姿勢を生徒に身に付けさせること。

2 内容

- (1) 「育てたい生徒像」及び「卒業時の学習到達目標」について
 - ① 「育てたい生徒像」は、青森県の中学生の学習状況や実態等を踏まえ、中学校卒業時の生徒像を示している。
 - ② 「卒業時の学習到達目標」は、各学校において卒業時に全ての生徒に求められる外国語能力を示している。
 - ③ 「卒業時の学習到達目標」は、青森県の中学生の学習状況や実態等を踏まえ、卒業まで生徒に身に付けさせる能力の全体像を、言語を用いて「～することができる」という形で示している。
 - ④ 学習指導要領の目標に基づき、「外国語の理解の能力」「外国語の表現の能力」ごとに示している。
- (2) 卒業時及び各学年の学習到達目標について
 - ① 「聞くこと」、「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5つ

の領域ごとの卒業時の学習到達目標は、各領域ごとに卒業まで生徒に身に付けさせる能力の全体像を示している。

- ② 各領域の卒業時の学習到達目標は、学習指導要領の各領域の目標に基づき、言語を用いて「～することができる」という形で示している。
 - ③ 各領域の学習到達目標は、卒業時の学習到達目標を達成させるため、学年ごとの目標として、言語を用いて「～することができる」という形で示している。
- (3) 各領域の項目（ア～ウ）について
- ① 各学年の学習到達目標を達成させるために、生徒に身に付けさせる能力を段階的に示している。
 - ② 項目（ア～ウ）は、目標の難易度に基づき配置している。
ただし、ア～ウの項目は、各学期の学習到達目標ではない。
 - ③ 学習指導要領の各領域の「言語活動の指導事項」を踏まえて設定している。

3 数値目標及び参考資料

(1) 数値目標

- ① 具体的な学習到達目標となるよう、数値目標を設定している。
- ② 語数については、青森県立高等学校入学者選抜問題、学習状況調査問題及び県内公立中学校の使用教科書を踏まえて設定している。

(2) 参考資料

- ① 小学校学習指導要領解説外国語活動編（平成29年6月）
- ② 小学校学習指導要領解説外国語編（平成29年6月）
- ③ 中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）
- ④ 各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き（文部科学省初等中等教育局 平成25年3月）
- ⑤ 青森県版中学校英単語集 ～VERSION IV～
- ⑥ NEW CROWN（三省堂）、NEW HORIZON（東京書籍）、TOTAL ENGLISH（学校図書）

Ⅱ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の活用のポイント及び作成手順

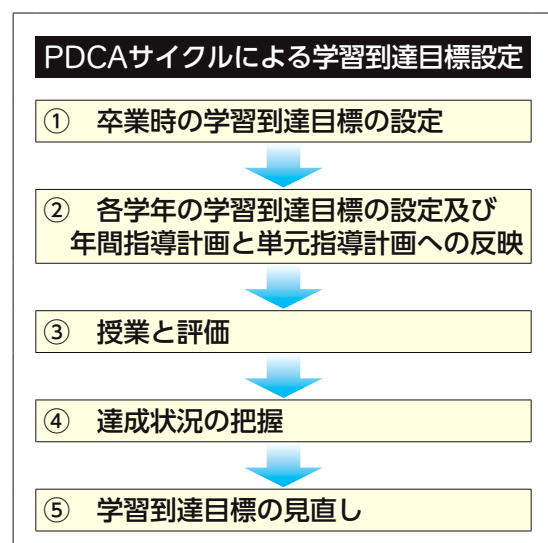
1 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の活用のポイント

(1) PDCAサイクルの確立

- ① 卒業時の学習到達目標の設定
- ② 各学年の学習到達目標の設定及び年間指導計画と単元指導計画への反映
- ③ 授業と評価
- ④ 達成状況の把握
- ⑤ 学習到達目標の見直し

(2) 年間・単元指導計画との関連の明確化

- ① 設定した学習到達目標を達成できるように、年間・単元指導計画を見直す。
- ② 年間指導計画等に「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の評価方法と評価時期を位置付ける。



(3) 授業改善への取組

- ① 単元の目標達成のための指導と評価の流れを明確にし目標・指導・評価の一体化を図る。
- ② 各単元で生徒に身に付けさせたい能力を意識して、各時間の言語活動を工夫し、組み立てる。

2 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定手順

(1) 検討体制の構築

- ① 外国語担当教員等が全員による話し合いを行う。
 - ・小規模校においては、管理職の理解や協力、リーダーシップの下、他校との連携を図るなど工夫する。
- ② 教員間で指導観を共有する。
 - ・言語を用いて何をできるようになることを目指すか、教員間で共通理解を図る。

(2) 各学校の生徒の実態の把握

- ① 校内テストや外部テスト、アンケート調査等を活用する。
- ② テストや調査のデータを踏まえ、生徒の学習習慣や興味・関心及び学習の状況などを多角的かつ客観的に把握する。

(3) 卒業時の学習到達目標の設定

- ① 卒業時の学習到達目標は、各学校の実態を踏まえ、言語を用いて「～することができる」という形で示す。
- ② 5つの領域ごとに卒業時の学習到達目標を設定する。

(4) 各学年の学習到達目標の設定

- ① 卒業時の学習到達目標を達成するため、学年ごとの目標を設定する。
- ② 5つの領域ごとに言語を用いて「～することができる」という形で示す。

(5) 各学年の学習到達目標を達成するための目標の設定

- ① 各領域に、1～3学年の学習到達目標を達成するために必要な目標を設定する。
- ② 学習到達目標は、具体的に設定する。
- ③ 目標の数や順序性に配慮して設定する。

(6) 年間・単元指導計画との関連の検討

- ① 各学校で策定している年間指導計画の「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の目標及び評価規準が、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標と関連があるか検討し、必要に応じて改善する。
- ② 各単元指導計画の目標及び評価規準は、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標のいずれかと関わるように設定する。

(7) 評価方法の明確化、達成状況の把握及び到達目標の見直し

- ① 評価方法は、従来のペーパーテストに加え、面接、スピーチ、エッセイなどのパフォーマンス評価や活動の観察等様々な評価方法を取り入れ、達成度を把握することが大切である。
- ② 生徒の学習の実現状況は、単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期に評価する。また、学期や学年といった単位での学習の実現状況を総括する。
- ③ 外国語科担当教員等が全員で、学習到達目標の達成状況を把握し、必要に応じて指導方法を改善するとともに、評価の妥当性及び信頼性を高める視点から、評価方法を適宜見直す。
- ④ 学年末には、卒業時及び学年ごとの目標の適切さを検討し、必要に応じて、設定した目標の内容や難易度を見直す。

青森県版「CAN-DOリスト」の形での

育てたい生徒像	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒。
----------------	---

5つの領域ごとの卒業時の学習到達目標			
ア	はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。
イ	はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができる。	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
ウ	はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる。	社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができる。	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。

学年	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)
3	ア はっきりと話されれば、90語程度の日常的な話題(天気予報、校内放送、交通情報など)について、必要な情報を聞き取ることができる。	ア 日常的な話題(広告、パンフレット、予定表、メールなど)について、簡単な語句や文で書かれた400語程度のものから必要な情報を読み取ることができる。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、事実や意見、感情等を伝え合いながら、即興で会話を継続・発展させることができる。
	イ はっきりと話されれば、90語程度の日常的な話題(学校行事、自分の好きなことなど)について、概要を捉えることができる。	イ 日常的な話題(学校紹介、諸外国の中学校生活など)について、簡単な語句や文で書かれた400語程度の文章の概要を捉えることができる。	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続・発展させることができる。
	ウ はっきりと話されれば、90語程度の社会的な話題について、要点を捉えることができる。	ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた400語程度の文章の要点を捉えることができる。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて4往復程度で述べ合うことができる。
2	ア はっきりと話されれば、70語程度の日常的な話題(天気予報、校内放送、交通情報など)について、必要な情報を聞き取ることができる。	ア 日常的な話題(広告、パンフレット、予定表、メールなど)について、簡単な語句や文で書かれた300語程度のものから必要な情報を読み取ることができる。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、即興で会話を継続させることができる。
	イ はっきりと話されれば、70語程度の日常的な話題(学校行事、自分の好きなことなど)について、概要を捉えることができる。	イ 日常的な話題(学校紹介、諸外国の中学校生活など)について、簡単な語句や文で書かれた300語程度の文章の概要を捉えることができる。	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させることができる。
	ウ はっきりと話されれば、70語程度の社会的な話題について、要点を捉えることができる。	ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた300語程度の文章の要点を捉えることができる。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて3往復程度で述べ合うことができる。
1	ア はっきりと話されれば、50語程度の日常的な話題(天気予報、校内放送、交通情報など)について、必要な情報を聞き取ることができる。	ア 日常的な話題(広告、パンフレット、予定表、メールなど)について、簡単な語句や文で書かれた150語程度のものから必要な情報を読み取ることができる。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。
	イ はっきりと話されれば、50語程度の日常的な話題(学校行事、自分の好きなことなど)について、概要を捉えることができる。	イ 日常的な話題(学校紹介、諸外国の中学校生活など)について、簡単な語句や文で書かれた150語程度の文章の概要を捉えることができる。	イ 日常的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
	ウ はっきりと話されれば、50語程度の社会的な話題について、要点を捉えることができる。	ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた150語程度の文章の要点を捉えることができる。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて2往復程度で述べ合うことができる。
評価方法	リスニングテスト、ワークシート	ペーパーテスト、ワークシート	スピーキングテスト

※各領域別のア、イ、ウは、新学習指導要領の各領域別の目標を踏まえており、学年があがるごとにレベルアップしている。最終的(中学校卒業時)には、5つの領域別の目標及び卒業時の学習到達目標の達成につながる。

学習到達目標（新学習指導要領対応）

卒業時の学習到達目標	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。
-------------------	---

5つの領域ごとの卒業時の学習到達目標		
関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。	ア
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。	イ
社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	ウ

話すこと(発表)	書くこと	学年
ア 関心のある事柄について、その場で考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、即興で意見を言ったり説明したりすることができる。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて35～45語程度で正確に書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助無し)	3
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、聞き手の反応を確認しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を35～45語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助無し)	
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて4文程度で話すことができる。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて35～45語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助無し)	
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、メモやキーワードを頼りにしながら、即興で話すことができる。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて25～35語程度で正確に書くことができる。(JTEとALTの補助有り)	2
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、話の構成に気を付けながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を25～35語程度で書くことができる。(JTEとALTの補助有り)	
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて3文程度で話すことができる。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて25～35語程度で書くことができる。(JTEとALTの補助有り)	
ア 関心のある事柄について、教師のサポートがあれば、簡単な語句や文を用いて、メモやキーワードを頼りにしながら、即興で話すことができる。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて15～25語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助有り)	1
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、自分で作成したメモなどを活用しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。	イ 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を15～25語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助有り)	
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて2文程度で話すことができる。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことを15～25語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助有り)	
スピーチテスト、発表会	ライティングテスト、ワークシート	評価方法

※表中の「日常的な話題」とは、生徒の日々の生活に関わる話題のことである。「社会的な話題」とは、社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことである。

パフォーマンス評価例 天気予報【聞くこと】

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（2学年 ア）

はっきりと話されれば、70語程度の日常的な話題（天気予報、校内放送、交通情報など）について、必要な情報を聞き取ることができる。

2 パフォーマンス評価の目標

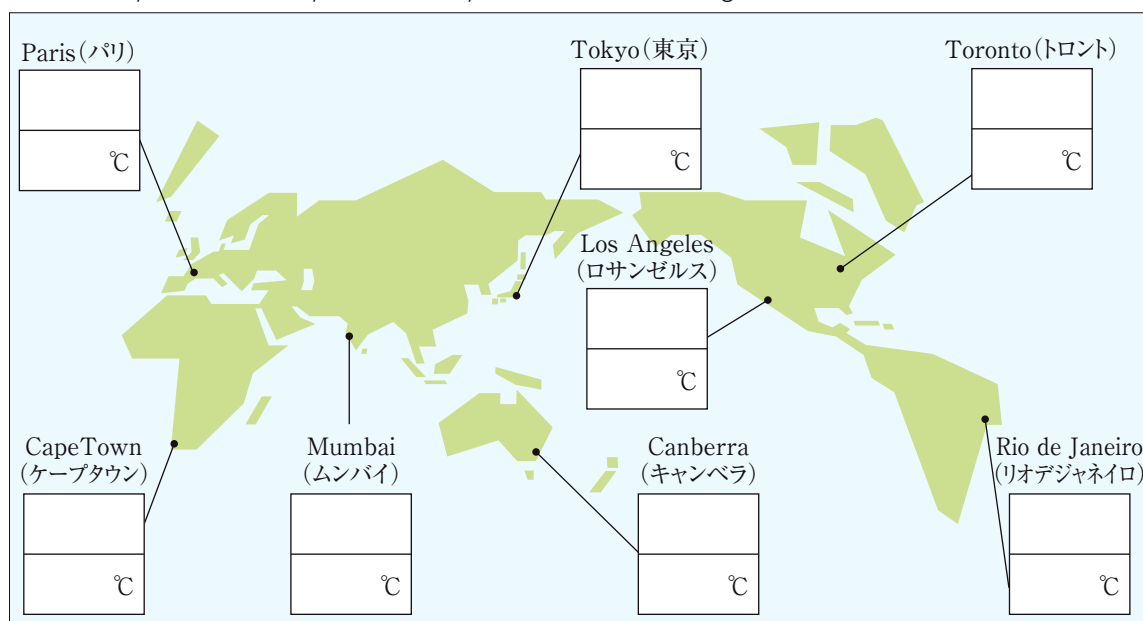
天気予報の音声を聞いて必要な情報を聞き取ることができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

天気予報の音声を聞いて、世界地図の主要都市にある解答欄に、天気記号と気温を記入する。

例) sunny☉ cloudy☉ rainy●など °C = degrees



(2) 実施方法

ワークシート

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・未来表現の復習、天気や気温の言い方の復習

② 事後指導

- ・ 誤答分析
- ・ 音声を途中で区切ったり、可能なら音声のスピードを遅くしたりして、もう一度音声を聞かせる。

4 評価のポイント

正確さ	A	必要な情報を聞き取り、すべての問いに正しく答えている。
	B	ある程度、必要な情報を聞き取り、7割以上の問いに正しく答えている

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

(1) 他学年での方法

- ・ 1年生は天気のみ、あるいは数字の聞き取りとして気温のみ。あるいは、都市を絞る。
- ・ 3年生は週間天気と現在完了の表現を入れた文や、「傘を持参しましょう。」などの補足的情報を聞き取らせる。
- ・ 世界地図の解答欄に直接記入する方法の他に、内容について英語あるいは日本語での問いや、ディクテーション、TFクイズ、絵選択、文や表などの穴埋め形式等が考えられるので、レベルに応じて作成する。

(2) 対応教科書

New Crown2 (平成28年度版) Let's Listen 2 p.36

Memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（2学年 ウ）

社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた300語程度の文章の要点を捉えることができる。

2 パフォーマンス評価の目標

「社会的な話題」を扱った文章を読み、書き手が伝えようとしている「要点」を把握する。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

ペーパーテスト

James Naismith was a PE teacher at a school in Massachusetts in 1891. He taught gymnastics in the winter during the class, but his students were not interested in it. He needed to change the winter program of his class. At first, he tried American football, soccer, and lacrosse, but they didn't work well. So he decided to make a new sport that his students could enjoy. He took some good points from each of the sports and tried to make a better one. His idea was that two teams pass the ball to each other with their hands toward their own goals. He thought about using old boxes for the goals, but he could not find any, so he used peach baskets. Because peach baskets and a ball were used in this sport, Naismith and his students named it basketball. The first game was played by 18 students and used a soccer ball. The peach baskets were easy to break, so it was changed to metal goal rings later. A board was also set behind the goal because some excited people touched the ball from behind the goal rings. Naismith made only 13 rules at the beginning. There were not rules about the number of players. In 1892, 100 people played basketball on the same court at Cornell University. Now we have about 250 rules for basketball, but the basic rules have not been changed from the originals.

- 1 What is this story mainly about?
[A] Why basketball is so popular.
[B] The newest sport in the US.
[C] How a new sport was made.
[D] Basketball for Naismith's friends.

- 2 What did Naismith try to use for the goals of the new sport at first?
 [A] He tried to use peach baskets for goals at first.
 [B] He used a soccer ball for the first game.
 [C] He used rings for goals.
 [D] He had an idea about using boxes for the goals.
- 3 Why was the board set behind goal rings?
 [A] Because some excited people touched the ball from behind the goal rings.
 [B] To make the game safer.
 [C] To make the game more exciting.
 [D] Because some excited people watched the game near the goal rings.
- 4 What happened on the basketball court of Cornell University in 1892?
 [A] The rules were changed from 13 to about 250.
 [B] 100 people played basketball on the same court.
 [C] 18 students played basketball.
 [D] The peach baskets were broken.

(2) 実施方法

- ・年度末の授業において実施
- ・分からない単語があっても、その前後から意味を推測して読むようアドバイスする。

(3) 指導のポイント

- ① 事前指導 ※日常的にまとまった英文を読み、要点を捉えるトレーニングのための活動例
- ・帯活動で短い英文を読み、質問に答える活動を行う。
 - ・グループで英文を切り分けたものを、順番に並べる活動を行う。
- ② 事後指導
- ・分からなかった単語を辞書で調べさせたり、生徒同士で確認させたりする。

4 評価のポイント

内容理解	A	文章の要点を捉えることができる。
	B	文章の要点を概ね捉えることができる。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 日頃から、英文を読ませる時間を確保し、英文を読むことに慣れ親しませる。
- (2) 未習の語句についても、文の前後から意味を推測し読むことを習慣付けさせる。

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（1学年 ウ）

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて2往復程度で述べ合うことができる。

2 パフォーマンス評価の目標

- ・英語の質問に、本文の表現を参考にしながら、英語で答えることができる。
- ・本文の内容について、自分の考えや感想を簡単に述べることができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

<本文>

Monkeys in Australia

Koalas and kangaroos are popular animals in Japanese zoos. They are from Australia. Then, are they popular in Australian zoos? No. What animals are popular in Australia? Monkeys are.

Why are monkeys popular in Australia? Monkeys don't live in Australia. People in Australia can see them only in zoos, like we can see koalas and kangaroos only in zoos in Japan.

Different animals are popular in different countries.

(注) like ~のように

<質問>

- 1 Are koalas and kangaroos popular in Australian zoos?
- 2 What animals are popular in Australia?
- 3 What do you think about this story?

<回答例>

- 1 No, they are not.
- 2 Monkeys are.
- 3 It's an interesting story. I didn't know monkeys are popular in Australia.

(2) 実施方法

- ・資料を配布し、読み聞かせる。(1分)
- ・ALTまたはJTEとのQ&A (3分)

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・本文は事前に配布し、読ませておく。
- ・普段から英問英答に慣れさせておく。

② 事後指導

- ・答えを確認し、英問英答の練習をする。
- ・本文の内容について、英語で自由に感想を述べ合う。

4 評価のポイント

内 容	A	話の内容についての感想を、2文以上で話すことができる。
	B	話の内容についての感想を話すことができる。
正 確 さ	A	フルセンテンスで答えることができる。
	B	ショートアンサーで答えることができる。
流 暢 さ	A	不自然な間を置かずに答えることができる。
	B	間はあるが、英語で伝えようとしている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 2、3年生の場合は、質問を以下のように替えるなどして対応するとよい。

<質問>

- 1 Why are monkeys popular in Australian zoos?
---Because people in Australia can see them only in zoos.
---Because they don't live in Australia.
- 2 What animal do you like the best?
---I like dogs the best.
- 3 (2の質問を受けて) Please tell me more.
---I like dogs because they are cute. I have a dog and I walk my dog every day. We are good friends.

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（2学年 ア）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、即興で会話を継続させることができる。

2 パフォーマンス評価の目標

be going toの表現を用いて、自分の夏休みの計画を相手に伝えたり、相手の計画について質問したりして、会話を続けることができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

- ・ALTまたはJTEから夏休みの計画について生徒に質問する。
- ・生徒からも質問し、会話を続ける。

<会話例>

ALT / JTE What are you going to do during summer vacation?

Student I'm going to visit Osaka. I will eat *takoyaki* there.

How about you?

ALT / JTE I'm going to visit my friend in Kyoto. I'm looking forward to seeing her.

Student That sounds nice. Is she from the U.S.?

ALT / JTE No. She is Japanese. We went to the same university.

Where in Osaka are you going to visit?

Student I'm going to visit U.S.J., Tsutenkaku and Osaka Castle.

ALT / JTE How nice! Enjoy your trip.

Student Thank you, I will. You too.

(2) 実施方法

- ・英語で簡単にあいさつしたのち、ALTまたはJTEが質問する。
- ・生徒は質問された内容について、英語で答える。
- ・内容に関する質問をしたり、答えたりしながら、会話を続ける。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・ペアまたはグループで、スモールトークを帯活動として継続して行う。
- ・夏休みの予定について考えさせておく。
- ・相手が理解しているか様子を見ながら、必要に応じて言い直したり、繰り返したりすることが大切であると伝える。

② 事後指導

- ・言いたくても英語で言えなかった表現を確認し、全体で共有する。

4 評価のポイント

内 容	A	夏休みの予定についてReally? How about you?などを適切に使いながら、話したり質問したりしている。
	B	夏休みの予定について話すことができる。
正 確 さ	A	文法的な間違いがほとんどなく、夏休みの予定について説明できる。
	B	短い表現を使いながら、夏休みの予定について説明できる。
流 暢 さ	A	夏休みの予定について、不自然な間を置かずに話すことができる。
	B	間はあるが、英語で伝えようとしている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 1年生や3年生の場合は、話題や文法事項を替えて行うことができる。

<p>Memo</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

パフォーマンス評価例 道案内【話すこと（やり取り）】③

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（2学年 イ）

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させることができる。

2 パフォーマンス評価の目標

相手から質問された場所について、地図を見ながら英語で道案内をすることができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

<地図>



<会話例>

ALT / JTE Is there a hospital near here?

<回答例>

Student Yes. Go straight and turn right at the first corner. Then turn left. Go straight for two blocks. You can see it on your left.

<会話例>

ALT / JTE Thank you very much. How long does it take to get there from here?

<回答例>

Student About fifteen minutes.
I'm sorry, I don't know.

(2) 実施方法

- ・資料を配布する。
- ・ALTまたはJTEが質問する。
- ・生徒は聞かれた場所の説明を英語で行う。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・道案内に関する表現や場所を表す表現について習得させる。
- ・教科書以外の地図でも説明できるようにしておくといよい。

② 事後指導

- ・答えを確認し、地図上の建物の場所を説明する。

4 評価のポイント

正確さ	A	文法的な間違いがなく、and, thenなどの接続詞を適切に使って説明できる。
	B	短い表現を使いながら、尋ねられた場所について説明できる。
流暢さ	A	尋ねられた場所について、不自然な間を置かずに説明することができる。
	B	間はあるが、英語で説明しようとしている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 1年生の場合は、デパートや銀行など、駅から近い場所を質問するとよい。
3年生の場合は、ホテルや学校など、駅から遠い場所を質問するとよい。

Memo

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（2学年 ウ）

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて3往復程度で述べ合うことができる。

2 パフォーマンス評価の目標

環境問題（3Rs）について書かれた英文を読み、JTE/ALTからの質問に答えることができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容



Do you know anything about the 3Rs? They mean reducing, reusing, and recycling. Many people in the world are interested in the ideas of the 3Rs. Look at this picture. This is a recycling box in the U.S. It is on the street. People put used shoes and clothes into the box. Then a charity will give them to people in need. It's good for people and the environment.

(2) 実施方法

ア 上記英文を生徒に配布する。

イ 生徒に30秒時間を与え、内容を理解するために読み取る時間を確保する。

ウ JTE/ALTから次の質問をする。

1 : What are many people in the world interested in?

〔想定される答え〕 They are interested in (the ideas of) the 3Rs.

2 : What can we recycle?

〔想定される答え〕 We can recycle (used) shoes and clothes.

〔「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を達成させるための質問例〕

3 : What can you do for the environment?

〔想定される答え〕 I can save water. I can bring my own bag. (to the store)
I can collect cans.

: Are you interested in 3Rs?

: Do you have a recycling box in your town?

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・環境問題に関する単語を確認しておくように伝える。
- ・環境問題を改善するために、自分ができることを考えておく。

② 事後指導

- ・やりとりの内容をフィードバックし、どのような表現ができるようになればよいかを具体的に助言する。

4 評価のポイント

正確さ (質問1、2)	A	主語と動詞を含む英文（フルセンテンス）で答えている。
	B	答えの中心となる部分のみ答えている（ショートアンサー）。
内容 (質問3)	A	考えたことや感じたこと、その理由などを4往復以上で述べている。
	B	考えたことや感じたこと、その理由などを3往復程度で述べている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 環境問題を扱った内容であればどの教科書でも可能である。
- (2) 生徒1人当たりの所要時間は4～5分を想定している。
- (3) 事前指導の段階で、環境問題の改善策を表す英語表現を必要に応じて提示する。

Memo

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（3学年 ア）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、事実や意見、感情等を伝え合いながら、即興で会話を継続・発展させることができる。

2 パフォーマンス評価の目標

現在完了・継続の表現を用いて、自分の所属している部について相手に伝えたり、相手の部活動について質問したりして、会話を続けることができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

- ・ALTまたはJTEから部活動について生徒に質問する。
- ・生徒からも質問し、会話を続ける。

<会話例>

ALT / JTE	What club activity are you in?
Student	I'm in the baseball club.
ALT / JTE	How long have you played baseball?
Student	For three years. How about you? Do you play any sports?
ALT / JTE	Yes, I do. I play soccer.
Student	How long have you played it?
ALT / JTE	For about ten years.
Student	Ten years!

(2) 実施方法

- ・英語で簡単にあいさつしたのち、ALTまたはJTEが質問する。
- ・生徒は質問された内容について、英語で答える。
- ・内容に関する質問をしたり、答えたりしながら、1～2分会話を続ける。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・ペアまたはグループで、スモールトークを帯活動として継続して行う。
- ・自分の所属する部活動について英語で言えるようにしておく。
- ・相手が理解しているか様子を見ながら、必要に応じて言い直したり、繰り返したりすることが大切であると伝える。
- ・部活動に所属していない生徒については、質問内容を工夫して対応する。

② 事後指導

- ・言いたくても英語で言えなかった表現を確認し、全体で共有する。

4 評価のポイント

内 容	A	自分や相手の所属する部活動について、 How long have you ~? / I have ~. を適切に使いながら、話したり質問したりしている。
	B	自分や相手の所属する部活動について話すことができる。
正 確 さ	A	文法的な間違いがほとんどなく、自分の所属する部活動について説明できる。
	B	短い表現を使いながら、自分の所属する部活動について説明できる。
流 暢 さ	A	自分の所属する部活動について、不自然な間を置かずに話すことができる。
	B	間はあるが、英語で伝えようとしている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 1年生や2年生の場合は、話題や文法事項を替えて行うことができる。

<p>Memo</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（3学年 イ）

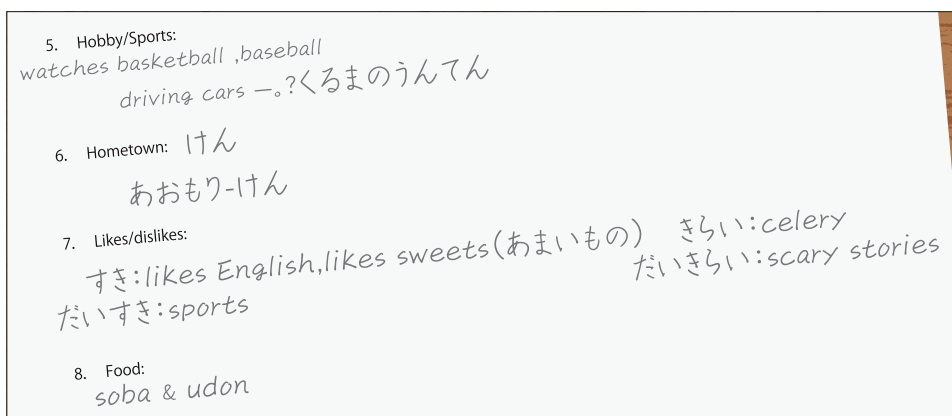
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続・発展させることができる。

2 パフォーマンス評価の目標

日本語を学習しているアメリカの高校生のメモを見て、JTE/ALTと意見を述べ合うことができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容



(2) 実施方法

ア パフォーマンス評価実施以前に関連する教科書の内容理解を終え、テストの予告をする。

また、授業で教師と生徒、または生徒同士でパフォーマンステスト形式の練習を行う。

イ 簡単なあいさつを終えてから以下の流れでテストを実施する。

T : Look at this picture. What languages do you see?

S : I see English and Japanese.

T : They are written by an American high school student.

Now Japanese is studied all over the world.

Can you guess why?

S : Because many people are interested in Japanese anime and manga.

T : What language do you want to study if you can?

S : I will study Korean.

T : Why?

S : Because I like Korean musicians.

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・ スクリプト内の下線部は、授業内で練習しておく。

② 事後指導

- ・ やりとりの内容をフィードバックし、どのような表現ができるようになればよいのかを具体的に助言する。

4 評価のポイント

正確さ	A	主語と動詞を含む英文（フルセンテンス）で答えている。
	B	答えの中心となる部分のみ答えている（ショートアンサー）。
流暢さ	A	不自然な間を置かずに伝えたり答えたりして会話を継続・発展させることができる。
	B	不自然な間を置かずに伝えたり答えたりすることができる。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 生徒1人当たりの所要時間は4～5分を想定し、ALTの協力を得て2単位時間で終了を目安とする。
- (2) Total English3（平成28年度版）Lesson 6 “Interesting Languages”での活用を想定しているが、3年生後半であれば教科書によらなくても実施可能である。
- (3) 教師側が使う英語は、公平性が確保される範囲で生徒の理解度に応じて変える。

Memo

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標

(1 学年 ア)

関心のある事柄について、教師のサポートがあれば、簡単な語句や文を用いて、メモやキーワードを頼りにしながら、即興で話すことができる。

(2 学年 ア)

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、メモやキーワードを頼りにしながら、即興で話すことができる。

(3 学年 ア)

関心のある事柄について、その場で考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、即興で意見を言ったり説明したりすることができる。

2 パフォーマンス評価の目標

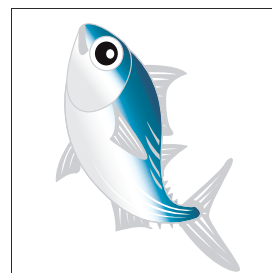
クイズのヒントにターゲット文を用いることを通して、答えの説明となるような英文を簡単な語句や文を用いて即興で話し、クイズを発表することができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

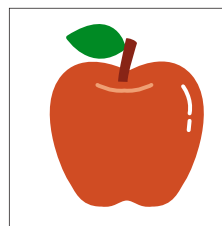
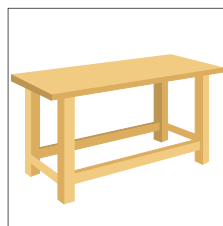
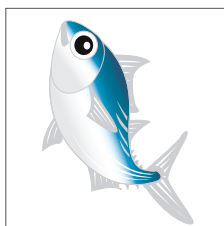
カードのイラストが答えになるようなヒントを即興で3つ考え、パートナー（またはALT）に出題する。クイズの難易度が上がっていった場合（例：ひな祭り、辞典）、その語の定義を英語で表現できればいいので、イラストや写真がなくても可能。

Hint 1 : It swims very well.
 Hint 2 : It lives in the sea.
 Hint 3 : We can eat it as sashimi. What is it?



ペアでテストを受けさせる場合は、生徒の役割（出題者と解答者）を交代させる。

【生徒に提示するイラストカードの例】



(2) 実施方法

- ① ペアでテストを受ける。
- ② 生徒Aが複数のイラストカードから1枚を選択し、イラストが答えになるようなヒントを3つ即興で生徒Bに出題する。
【選択させる場合、対象学年に合わせて難易度を変えることができる。生徒の状況にもよるが、イラストを見せて生徒に選択させる場合と、完全に無作為抽出で選択させることもできる。】
- ③ 生徒AとBが交代する。

(3) 指導のポイント

- ① 事前指導
 - ・目標文の学習とテストに使わないイラストを用いてのドリル練習(一斉・ペア・個別)
 - ・クイズのヒントを作成するときのポイント指導、全体確認(情報は大まかなものから詳細なもの順で話す。)
- ② 事後指導
 - ・作成したクイズにイラストをつけながら、作品として書いて完成させ掲示する。
 - ・評価の高かった生徒のクイズを紹介するなどして、次の活動の意欲付けにつながるような講評を行う。
 - ・即興性を養うトレーニングとして、毎時の帯活動にペア練習させることも可能。

4 評価のポイント

内 容	A	基本的な情報だけでなく、補足的な情報を付加することができる。
	B	基本的な情報のみを伝えることができる。
正 確 さ	A	発音や文法、語法に誤りがない。
	B	発音や文法、語法に多少の誤りがあるが、意味内容の伝達はできている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) どの学年でも言語材料を変えて活用することができる。
 - 1年：3ヒントクイズ（上記パフォーマンス評価例参照）
 - 2年：不定詞（形容詞的用法、副詞的用法）のまとめの活動／接続詞whenを用いた活動（例：You use this when you want to cut some paper.）
 - 3年：後置修飾・関係代名詞を用いた活動（例：It is something that you see in the supermarket.）
- (2) 「関心のある事柄」とは、スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事、休日の計画、日常の出来事など、身の回りのことで生徒が共通して関心を持っていることを指す。

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（3学年 ウ）

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて4文程度で話すことができる。

2 パフォーマンス評価の目標

社会的な話題の媒体を読み（または聞き、見て）、考えたことや感じたこと、その理由などを、自分で作成したメモなどを活用しながら、簡単な語句や文を用いて4文程度で発表することができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

社会的な話題に関する題材を教科書で学習した後に、類似の内容の資料を読み、自分の意見を4文程度で発表する。（評価のためのビデオ録画あり）

- 1文目：自分の意見
- 2文目：1文目をサポートする理由
- 3文目：自分の意見を補足する内容
- 4文目：自分の意見（表現方法を変えて1文目の内容を話す）

(2) 実施方法

- ① 一人ずつ実施。（ビデオ録画する。）
- ② 決められた時間内に配付された資料を黙読する。（必要であればメモを取っても良いと指示する。）
- ③ 自分の意見を発表する。

(3) 指導のポイント

- ① 事前指導
 - ・帯学習のプログラムとして、普段から自分の意見を言う練習を反復する。
 - ・簡単な例を用いて、自分の意見を4文で発表する練習を反復する。
- ② 事後指導
 - ・ビデオを授業で共有し、同じ資料の読み取りでも、ものの見方・考え方に違いがあることに気づかせる。
 - ・ペアやグループで同じ資料を再度読み直し、グループ内で意見交換する場を設ける。
 - ・評価用紙を生徒に返却し、正確さや内容の点において自己評価させる。

4 評価のポイント

内 容	A	考えたことや感じたことを簡単な語句や文を用いて4文以上で話すことができる。
	B	考えたことや感じたことを簡単な語句や文を用いて4文程度で話すことができる。
正 確 さ	A	発音や文法、語法に誤りがない。
	B	発音や文法、語法に多少の誤りがあるが、意味内容の伝達はできている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 「CAN-DOリスト」【話すこと（発表）ウ】における学年ごとの到達目標は、話す文の数が異なるので、提示する社会的な話題の媒体の難易度を変えることによって、1・2学年でも活用できる。
- (2) 学習到達目標における「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたこと」を示す媒体は、ニュース、新聞記事などの読み物資料だけでなく、映像、音声、図表、ポスター、電子メールなど、さまざまなものが考えられる。
- (3) 学習到達目標における「社会的な話題」とは、各教科書会社で取り扱っている、環境問題、エネルギー問題、人権問題、ICT、自然環境、世界情勢、科学技術、平和などを指す。自校の教科書とは異なる教科書から題材を見つけることで、難易度も話題も似通っているが媒体が異なる題材を活用することができる。
- (4) 同じ教科書でも、当該学年よりも下の学年の題材を再度学習することで理解が深まり、生徒の精神的負担が軽減されることもある。
例えば、Total English 3（平成28年度版）Reading1 Energy and the Environmentを学習後、Total English 2（平成28年度版）Lesson 6 The 3Rs in Germanyをテストの読み物資料として活用し、自分の意見を発表する、など。

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（1学年 イ）

日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を15語～25語程度で書くことができる。

2 パフォーマンス評価の目標

日常的な風景を表す絵を見て、簡単な語句や文を用いて的確に描写し、まとまりのある文章を15語以上で書くことができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

下の絵を見て、どんなことが言えるのか、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を15語以上で書く。

	<p>解答例</p> <p>This is Kumi and Yumi. They are good friends. They are in the cafeteria. They eat lunch here together every day.</p> <p>(21語)</p>
--	---

(2) 実施方法

- ・評価のポイント及び手順を説明する。
- ・制限時間は10分とする。辞書の使用は認める。
- ・授業の最後で原稿を回収し、JTEまたはALTが評価する。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・使用する可能性が高い表現（This is ～. He/She is ～. They are ～. He/She + 一般動詞(s) They + 一般動詞etc.）を復習し、定着させる。
- ・事前にテストとは異なった写真や絵を使用し、テストと同じように英文を作成する練習をする。（例：Total English 1（平成28年度版）Chapter3 Project pp.108～109）

② 事後指導

- ・書いた内容について個別に添削し、使用した単語、文法、その他の表現が正しく使われているかを確認させる。

4 評価のポイント

内 容	A	絵を見て、どんなことが言えるか、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある文章を25語以上で書くことができる。
	B	絵を見て、どんなことが言えるか、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある文章を15語～25語程度で書くことができる。
正 確 さ	A	文法や語彙、語法の誤りがほとんどない。
	B	文法や語彙、語法の誤りがあるが、意味内容の伝達を妨げるほどではない。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 文章構成は、15語以上で書くことになっているため、3文程度は書くことが望ましいことを伝える。
- (2) 単元の目標に向け指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

Memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（2学年 ウ）

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて25語～35語程度で書くことができる。

2 パフォーマンス評価の目標

社会的な記事を読み、考えたことや感じたこと、その理由などを、25語以上で書くことができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

Japan will host the Tokyo Olympics in 2020. Many foreign people will come to Japan. Japanese people should speak English for them because English is a common language in the world and we should be able to communicate with those people in English.

(注) be able to ～できる

解答例

I think it is very exciting because I practice basketball every day. I am interested in the great basketball players from America. So I want to speak with some American basketball players. (32語)

(2) 実施方法

- ・評価のポイント及び手順を説明する。
- ・制限時間は10分とし、辞書の使用は認めない。
- ・回収し、JTEまたはALTが評価する。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・オリンピックに関する情報を事前に調べさせる。
- ・英文を書くための表現（I want to ～, I think ～, - because ～ etc.）を定着させる。その1つの方法として、授業の終わりに、必要な表現を使った英作文が書けるよう繰り返し指導する。

② 事後指導

- ・書いた内容について個別に確認したり、単元で学習した表現について振り返らせたりしながら、どのように書けばよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。

4 評価のポイント

内 容	A	ニュースの記事を読んで、自分の感じていることや考えていること、その理由を筋道立てて、35語以上で書くことができる。
	B	ニュースの記事を読んで、自分の感じていることや考えていること、その理由を筋道立てて、25語以上35語程度で書くことができる。
正 確 さ	A	文法や語彙、語法の誤りがほとんどない。
	B	文法や語彙、語法の誤りがあるが、意味内容の伝達を妨げるほどではない。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 文章構成は、I think / I want to / because 等を用いて3文～5文程度は書くことが望ましいことを伝える。
- (2) 単元の目標に向け指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

Memo

1 青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（3学年 ア）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて35～45語程度で正確に書くことができる。

2 パフォーマンス評価の目標

関心のある事柄について、その特徴や自分の意見などを簡単な語句や文を用いて35語以上で書くことができる。

3 パフォーマンス評価例

(1) 内容

スポーツ選手や歴史上の人物、スポーツ選手や芸能人など、世界に誇れる有名な日本人を紹介するための英文を、その特徴や自分の意見等も含めて書く。

〈文章構成の例〉

There are many famous singers in Japan. Amuro Namie is one of them and is the most popular singer in Japan. She is 39 years old. She has been a singer for about 25 years, and has sung many different types of songs. She decided to retire from the entertainment world when she was 40 years old. I love her so much, I'll miss her and want her to come back to singing. (74語)

(2) 実施方法

- ・評価のポイント及び手順を説明する。
- ・制限時間は15分とし、辞書の使用は認めない。
- ・テスト終了後、回収し、JTEまたはALTが評価する。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・単元の学習課題として「有名な日本人を紹介するための英文を書く」ということをあらかじめ生徒に伝え、既習文型（形容詞の最上級／現在完了形等）をどのように活用するかに着目させる。
- ・毎時間、授業はじめの帯学習で、形容詞の原級・比較級・最上級や現在完了形等、英文の幅が広がるような既習文型を使った簡単な英作文を書く時間を設定し、まとまりのある英文を書けるように指導する。

② 事後指導

- ・書いた内容について個別に確認したり、既習文型を使った表現について振り返らせながら、よりよい文章構成を具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。

4 評価のポイント

内 容	A	有名な日本人について、その特徴や自分の意見などを簡単な語句や文を用いて45語以上で書くことができる。
	B	有名な日本人について、その特徴や自分の意見などを簡単な語句や文を用いて35語以上45語程度で書くことができる。
正 確 さ	A	文法や語彙、語法の誤りがほとんどない。
	B	文法や語彙、語法に誤りがあるが、意味内容の伝達を妨げるほどではない。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

5 留意点

- (1) 関心のある事柄について、35～45語程度で書くことが目標である。文章構成を意識したまとまりのある文章を書かせるために適切な段階を踏んで指導する必要がある。
- (2) 目標に向け、指導過程や評価方法は適切だったかを検討し、今後の改善につなげる。

Memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

第1学年 自己評価・到達度チェックシート(例)

1年組 番 氏名

[4：簡単にできる] [3：できる] [2：なんとかできる] [1：できない]

領域	No	学習到達目標	1学期	2学期	3学期
【聞くこと】	ア	はっきりと話されれば、50語程度の日常的な話題（天気予報、校内放送、交通情報など）について、必要な情報を聞き取ることができる。			
	イ	はっきりと話されれば、50語程度の日常的な話題（学校行事、自分の好きなことなど）について、概要を捉えることができる。			
	ウ	はっきりと話されれば、50語程度の社会的な話題について、要点を捉えることができる。			
【読むこと】	ア	日常的な話題（広告、パンフレット、予定表、メールなど）について、簡単な語句や文で書かれた150語程度のものから必要な情報を読み取ることができる。			
	イ	日常的な話題（学校紹介、諸外国の中学校生活など）について、簡単な語句や文で書かれた150語程度の文章の概要を捉えることができる。			
	ウ	社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた150語程度の文章の要点を捉えることができる。			
【話すこと】 (やり取り)	ア	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。			
	イ	日常的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて2往復程度で述べ合うことができる。			
【話すこと】 (発表)	ア	関心のある事柄について、教師のサポートがあれば、簡単な語句や文を用いて、メモやキーワードを頼りにしながら、即興で話すことができる。			
	イ	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、自分で作成したメモなどを活用しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて2文程度で話すことができる。			
【書くこと】	ア	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて15～25語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助有り)			
	イ	日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を15～25語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助有り)			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことを15～25語程度で書くことができる。(辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助有り)			

第2学年 自己評価・到達度チェックシート(例)

2年組 番氏名

[4:簡単にできる] [3:できる] [2:なんとかできる] [1:できない]

領域	No	学習到達目標	1学期	2学期	3学期
【聞くこと】	ア	はっきりと話されれば、70語程度の日常的な話題（天気予報、校内放送、交通情報など）について、必要な情報を聞き取ることができる。			
	イ	はっきりと話されれば、70語程度の日常的な話題（学校行事、自分の好きなことなど）について、概要を捉えることができる。			
	ウ	はっきりと話されれば、70語程度の社会的な話題について、要点を捉えることができる。			
【読むこと】	ア	日常的な話題（広告、パンフレット、予定表、メールなど）について、簡単な語句や文で書かれた300語程度のものから必要な情報を読み取ることができる。			
	イ	日常的な話題（学校紹介、諸外国の中学校生活など）について、簡単な語句や文で書かれた300語程度の文章の概要を捉えることができる。			
	ウ	社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた300語程度の文章の要点を捉えることができる。			
【話すこと】 (やり取り)	ア	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、即興で会話を継続させることができる。			
	イ	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させることができる。			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて3往復程度で述べ合うことができる。			
【話すこと】 (発表)	ア	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、メモやキーワードを頼りにしながら、即興で話すことができる。			
	イ	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、話の構成に気を付けながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて3文程度で話すことができる。			
【書くこと】	ア	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて25～35語程度で正確に書くことができる。(JTEとALTの補助有り)			
	イ	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を25～35語程度で書くことができる。(JTEとALTの補助有り)			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて25～35語程度で書くことができる。(JTEとALTの補助有り)			

第3学年 自己評価・到達度チェックシート(例)

3年組 番 氏名

[4：簡単にできる] [3：できる] [2：なんとかできる] [1：できない]

領域	No	学習到達目標	1学期	2学期	3学期
【聞くこと】	ア	はっきりと話されれば、90語程度の日常的な話題（天気予報、校内放送、交通情報など）について、必要な情報を聞き取ることができる。			
	イ	はっきりと話されれば、90語程度の日常的な話題（学校行事、自分の好きなことなど）について、概要を捉えることができる。			
	ウ	はっきりと話されれば、90語程度の社会的な話題について、要点を捉えることができる。			
【読むこと】	ア	日常的な話題（広告、パンフレット、予定表、メールなど）について、簡単な語句や文で書かれた400語程度のものから必要な情報を読み取ることができる。			
	イ	日常的な話題（学校紹介、諸外国の中学校生活など）について、簡単な語句や文で書かれた400語程度の文章の概要を捉えることができる。			
	ウ	社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた400語程度の文章の要点を捉えることができる。			
【話すこと】 (やり取り)	ア	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、事実や意見、感情等を伝え合いながら、即興で会話を継続・発展させることができる。			
	イ	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続・発展させることができる。			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて4往復程度で述べ合うことができる。			
【話すこと】 (発表)	ア	関心のある事柄について、その場で考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、即興で意見を言ったり説明したりすることができる。			
	イ	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、聞き手の反応を確認しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて4文程度で話すことができる。			
【書くこと】	ア	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて35～45語程度で正確に書くことができる。（辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助無し）			
	イ	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を35～45語程度で書くことができる。（辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助無し）			
	ウ	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて35～45語程度で書くことができる。（辞書、補助教材、JTE、ALTなどの補助無し）			

【参考文献】

- ◆文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）
- ◆文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動編（平成29年6月）
- ◆文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年6月）
- ◆文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
- ◆文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）
- ◆文部科学省 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（平成29年6月）
- ◆文部科学省 Hi, friends! 1
- ◆文部科学省 Hi, friends! 2
- ◆文部科学省 Let's Try! 1
- ◆文部科学省 Let's Try! 2
- ◆文部科学省 We Can! 1
- ◆文部科学省 We Can! 2
- ◆愛知県教育委員会 グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方
リーフレット事例編 中学校外国語（英語）科（平成29年3月）
- ◆新潟県立教育センター CAN-DOリストを活用した英語授業デザインハンドブック
（平成29年3月）
- ◆東京都教育委員会 「パフォーマンステストを活用した指導の充実に向けて」
（平成28年8月）
- ◆学校図書 TOTAL ENGLISH COURSE 1, 2, 3（平成28年度版）
- ◆東京書籍 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1, 2, 3（平成28年度版）
- ◆三省堂 NEW CROWN ENGLISH SERIES 1, 2, 3（平成28年度版）
- ◆光村図書 COLUMBUS21 ENGLISH COURSE 1, 2, 3（平成28年度版）
- ◆大修館書店 水谷豊著「バスケットボール物語－誕生と発展の系譜」2011

『中学校外国語科 パフォーマンス評価実践ハンドブック』
作成委員

中村 公子	教諭	青森市立南中学校
黒滝 智司	教諭	つがる市立木造中学校
高阪 護	教諭	黒石市立黒石中学校
小泉 由香	教諭	南部町立南部中学校
対馬 俊一	指導主事	弘前市教育委員会
出河 隆儀	学校教育課長補佐	三沢市教育委員会
畑山 元康	教育指導課長	東通村教育委員会
荒井 幸子	指導主事	中部上北広域事業組合教育委員会
山本 保子	指導主事	中南教育事務所
金澤 希代子	指導主事	上北教育事務所
長内 人志	指導主事	下北教育事務所
月足 正亮	指導主事	県総合学校教育センター
淋代 秀樹	指導主事	県教育庁学校教育課

中学校外国語科パフォーマンス評価実践ハンドブック

平成30年3月発行

発行者 青森県教育庁学校教育課
青森県青森市新町2丁目3番1号
電話番号 017-734-9897
FAX番号 017-734-8270